



「パーム油」から持続可能な調達を考える

日時：2016年7月29日（金）19:00 – 21:00

場所：千代田区立日比谷図書文化館
4階 スタジオプラス（小ホール）

入場無料、事前申込不要

主催：国際開発学会社会連携委員会

協力：一般財団法人CSOネットワーク

パーム油の原料となるヤシ果実を荷揚げする作業員
（インドネシア北スマトラ州、2012年10月）©ロイター



ここ数年、「責任あるサプライ・チェーン」や「持続可能な調達」の議論が盛んになっています。国境を越えて伸長してきたサプライ・チェーンの先に連なる農園や資源採掘の現場、工場などでは、強制労働、土地収奪、環境汚染などさまざまな人権侵害や環境破壊が引き起こされているからです。2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、現在「持続可能な調達コード」が作成されていることもあり、日本社会においても関心が高まってきました。



パーム油は、菓子パン、インスタント食品、チョコレート、アイスクリームなどの加工食品や石けん・洗剤など、私たちの身近にあふれる消費材に含まれていますが、その認知度は低いのが現状です。パーム油調達は、熱帯林の減少、生物多様性の喪失、労働者や子どもの権利の侵害など、環境、社会に大きな悪影響を及ぼしています。そのため、環境NGOなどが中心となり、「持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）」や「パーム油革新グループ（POIG）」などが立ち上がり、食品、消費材メーカーなども取り組みを始めていますが、問題の解決にはほど遠いのが現状です。さらに日本では、政府、研究者、市民社会など企業のステークホルダーの議論、関心や取り組みはまだ限定的です。



SDG12
持続可能な
消費と生産

本セミナーでは、「パーム油」をテーマに持続可能な調達の可能性について、学会として開発の視点を織り交ぜながら議論を行いたいと思います。

*国際開発学会は、経済学、経営学、政治学、社会学、文化人類学、農学、工学、医学等で従来各学問分野で発展してきた開発問題に関する知識、経験体系を集約し、「国際開発学会」という横断的な学術的研究組織として活動を展開しています。（1990年設立、会員数1,634名/2015年、会長 高橋基樹）

<https://www.jasid.org>

会場アクセス

千代田区立日比谷図書文化館 4階スタジオプラス (小ホール)

千代田区日比谷公園1番4号 (旧・都立日比谷図書館)

<http://hibiyal.jp/hibiya/access.html>



東京メトロ 丸の内線・日比谷線
「霞ヶ関駅」

B2出口より徒歩約3分

都営地下鉄 三田線「内幸町駅」
A7出口より徒歩約3分

東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」
C4出口より徒歩約3分

JR 新橋駅 日比谷口より 徒歩約10分

プログラム

開会挨拶、趣旨説明

黒田かをり：国際開発学会社会連携委員会副委員長

(一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事)

1. 持続可能なパーム油調達を巡る国内外の動きについて

- ・「国際的なパーム油生産・市場のガバナンス構造の現状と課題」
発題者 吉田暢氏：日本貿易振興機構・アジア経済研究所 研究企画部研究企画課
課長代理(研究企画担当)
- ・「見えない油ーパーム油の環境社会リスク」
発題者 飯沼佐代子氏：プランテーション・ウォッチ／地球・人間環境フォーラム
- ・「食品企業の持続可能なパーム油調達の取り組みと課題」
発題者 中尾洋三氏：味の素株式会社グローバルコミュニケーション部
PR・CSRグループ シニアマネージャー

休憩：

2. パネル・ディスカッションと質疑応答

パネリスト 古谷由紀子氏：サステナビリティ消費者会議代表

上記発題者 3名

モデレーター 大橋正明：国際開発学会社会連携委員会委員長 (聖心女子大学教授)

【お問い合わせ】

一般財団法人CSOネットワーク <http://www.csonj.org>

Eメール：office@csonj.org

電話 03-3202-8188 FAX: 03-6233-9560

* 国際開発学会の会員でなくともご参加いただけます。事前申込は不要です。